

(様式第10号) (第53条、第54条の2、第55条関係)

施工状況等報告書

令和元年 7月25日

長野県知事 阿部 守一 殿

住 所 長野県飯田市東栄町3350
氏 名 国土交通省中部地方整備局
飯田国道事務所長 尾出 清



長野県環境影響評価条例第32条第1項(長野県環境影響評価条例第40条第1項において準用する同条例第32条第1項)の規定により、下記のとおり送付します。

記

対象事業の名称	一般国道474号 三遠南信自動車道 青崩峠道路
報告対象期間	平成31年 4月 1日から 令和元年 6月30日まで
環境の保全のための措置の状況	資料1のとおり
対象事業の実施状況	資料2のとおり

(備考) 必要に応じ、環境の保全のための措置の状況又は対象事業の実施状況に係る図面又は写真を添付すること。

三遠南信自動車道 青崩峠道路（長野県飯田市南信濃）に係る環境の保全のための措置の状況

工事施工状況等報告：平成 31 年 4 月-令和元年 6 月の状況

- これまで、必要な保全対策に取り組んでおり、今後も事業進捗に応じて必要な保全対策を実施する予定です。
- 本報告（令和元年度第 1 四半期：H31.4 月-R1.6 月）の期間中、新たな保全対策は実施していません。

環境影響評価書（長野県飯田市南信濃）の一般的な環境保全対策		環境保全対策の実施状況
① 道路事業における一般的な環境保全の方針		H31. 4 月-R1.6 月まで
1	一定規模以上の建設機械は低騒音型、低振動型の機械を採用します。	一定規模以上の建設機械は低騒音型、低振動型の機械を採用しています【写真】。
2	トンネル工事において薬液注入工事を行う場合には「薬液注入工法による建設工事の施工に関する暫定指針（昭和 49 年：建設省）」に基づいて、環境影響を最小化するように努めます。	トンネル工事において薬液注入工事を行う場合には、「薬液注入工法による建設工事の施工に関する暫定指針（昭和 49 年：建設省）」に基づいて実施します。
3	実施区域は周知の埋蔵文化財包蔵地を通過しませんが、工事中に埋蔵文化財が発見された場合には、「文化財保護法」（昭和 25 年：法律第 214 号）の規定に基づき対処します。	施工箇所において埋蔵文化財の確認はありませんが、工事中に埋蔵文化財が発見された場合には、「文化財保護法」（昭和 25 年：法律第 214 号）の規定に基づき対処します。
4	工事中に汚染土壌の存在に係る情報及び事実が確認された場合には、「土壌汚染対策法」（平成 14 年：法律第 53 号）の規定に準じて対処します。	汚染土壌の存在に係る情報が確認されたため、「土壌汚染対策法」（平成 14 年：法律第 53 号）（以下「土対法」）の規定に準ずる手続きを行っています。 土対法第 4 条に係る届出済みであり、土対法第 14 条に係る申請を長野県事業と一体で提出しており、平成 27 年 3 月 26 日に県報告示されています。
5	建設工事に伴う副産物については、「廃棄物の処理及び清掃に関する法律」（昭和 45 年：法律第 137 号）等の規定に基づき再利用に努めるとともに適正に処理します。	建設工事に伴う副産物については、「廃棄物の処理及び清掃に関する法律」（昭和 45 年：法律第 137 号）等の規定に基づき再利用に努めるとともに適正に処理しています。
② 当該事業における一般的な環境保全の方針		H31. 4 月-R1.6 月まで
1	建設機械の稼働に係る粉じん等の影響を低減するために、一定規模以上の建設機械について排出ガス対策型建設機械の採用、散水、仮囲いの設置、建設機械と保全対象との離隔に配慮、作業方法の指導（停車中の車両等のアイドリングを止める、空ぶかし等をしない、建設機械の複合同時稼働や高負荷運転を避ける等）、作業時間の配慮（粉じん等の影響が予測される強風時の作業を控える等の配慮）を行います。	建設機械の稼働に係る粉じん等の影響を低減するために、一定規模以上の建設機械について排出ガス対策型建設機械の採用【写真】、散水【写真】、作業方法の指導（停車中の車両等のアイドリングを止める、空ぶかし等をしない、建設機械の複合同時稼働や高負荷運転を避ける等）、作業時間の配慮（粉じん等の影響が予測される強風時の作業を控える等の配慮）を行っています。 なお、工事施工箇所周辺に保全対象はなく、現時点では、仮囲いの設置、建設機械と保全対象との離隔に配慮は行っていません。
2	建設機械の稼働に係る騒音の影響を低減するために、遮音塀（防音シート）の設置、建設機械と保全対象との離隔に配慮、作業方法の指導（停車中の機械等のアイドリングを止める、空ぶかし等をしない、建設機械の複合同時稼働や高負荷運転を避ける等）、作業時の資機材取り扱いの指導を行います。	建設機械の稼働に係る騒音の影響を低減するために、作業方法の指導（停車中の機械等のアイドリングを止める、空ぶかし等をしない、建設機械の複合同時稼働や高負荷運転を避ける等）、作業時の資機材取り扱いの指導を行っています。 なお、工事施工箇所周辺には保全対象はなく、現時点では、遮音塀（防音シート）の設置、建設機械と保全対象との離隔に配慮は行っていません。
3	建設機械の稼働に係る振動の影響を低減するために、建設機械と保全対象との離隔に配慮、作業方法の指導（建設機械の複合同時稼働や高負荷運転を避ける等）を行います。	建設機械の稼働に係る振動の影響を低減するために、作業方法の指導（建設機械の複合同時稼働や高負荷運転を避ける等）を行っています。 なお、工事施工箇所周辺には保全対象はなく、現時点では、建設機械と保全対象との離隔に配慮は行っていません。

三遠南信自動車道 青崩峠道路（長野県飯田市南信濃）に係る環境の保全のための措置の状況

工事施工状況等報告：平成 31 年 4 月-令和元年 6 月の状況

- これまで、必要な保全対策に取り組んでおり、今後も事業進捗に応じて必要な保全対策を実施する予定です。
- 本報告（令和元年度第 1 四半期：H31.4 月-R1.6 月）の期間中、新たな保全対策は実施していません。

環境影響評価書（長野県飯田市南信濃）の一般的な環境保全対策		環境保全対策の実施状況
② 当該事業における一般的な環境保全の方針		H31.4 月-R1.6 月まで
4	工事施工ヤードでは景観を極力阻害しないようにヤードの目隠し等を検討し、環境影響の低減に努めます。	工事施工ヤードでは景観を極力阻害しないようにヤードの目隠し等を検討した結果、施工ヤードが視認できる場所への工事関係者以外の一般の人の立ち入りを禁止しています【写真】。 なお、一般の人が立ち入る状況が発生した場合には、目隠し等を検討します。
5	発破工事を実施する場合には、騒音・振動に係る一般的な保全対策として、発破の種類や雷管の選択や、火薬量調整による影響の低減を図るとともに、必要に応じて防音扉の設置等を行います。	調査坑トンネルの掘削を平成 26 年 12 月から平成 30 年 6 月に実施し、騒音・振動に係る一般的な保全対策として、発破の種類や雷管の選択、火薬量調整による影響の低減を図るとともに、平成 27 年 2 月 3 日に防音扉を設置しました。 なお、本坑トンネルの掘削を令和元年 5 月から開始しています。発破工事の開始に伴い、令和元年 6 月 25 日に防音扉を設置しました【写真】。
6	発破工事を実施する場合には、低周波音に係る評価手法や効果的な対策を検討するため類似事例や最新の知見の情報収集も含め十分に調査し、影響を低減するよう努めます。	平成 24 年度に、発破工事を行う場合の低周波音に係る評価手法や効果的な対策を検討するために類似事例や最新の知見の情報収集も含め、十分に調査し、影響を低減する環境保全対策（防音扉の設置）を検討しました。その上で、調査坑トンネルの発破工事の開始に伴い、平成 27 年 2 月 3 日に防音扉を設置しました。 なお、本坑トンネルの掘削を令和元年 5 月から開始しています。発破工事の開始に伴い、令和元年 6 月 25 日に防音扉を設置しました【写真】。
7	工事用車両の運行に係る粉じん等の影響を低減するために、工事施工ヤード内の工事用道路の仮舗装、散水、搬出入車両のカバーシート使用、工事用車両の洗車（搬出入車両のタイヤに付着した泥・土の水洗い設備等の設置）、工事用車両の運行時期の分散（粉じん等の影響が予測される強風時の作業を控える等の配慮）を行います。	工事用車両の運行に係る粉じん等の影響を低減するために、工事施工ヤード内の工事用道路の仮舗装【写真】、散水【写真】、搬出入車両のカバーシート使用、工事用車両の洗車（搬出入車両のタイヤに付着した泥・土の水洗い設備等の設置）、工事用車両の運行時期の分散（粉じん等の影響が予測される強風時の作業を控える等の配慮）を行っています。
8	工事用車両の運行に係る騒音の影響を低減するために、工事用車両の運行時期の分散、工事用車両の運行方法の指導（停車中の車両等のアイドリングを止める、空ぶかし等不必要な音を発生させない、規制速度の遵守等）を行います。	工事用車両の運行に係る騒音の影響を低減するために、工事用車両の運行時期の分散、工事用車両の運行方法の指導（停車中の車両等のアイドリングを止める、空ぶかし等不必要な音を発生させない、規制速度の遵守等【写真】）を行っています。
9	工事用車両の運行に係る振動の影響を低減するために、工事用車両の運行時期の分散、工事用車両の運行方法の指導（規制速度の遵守等）を行います。	工事用車両の運行に係る振動の影響を低減するために、工事用車両の運行時期の分散、工事用車両の運行方法の指導（規制速度の遵守等【写真】）を行っています。
10	工事用車両の運行に係る動物への影響を低減するために、動物のロードキル防止に留意し、運行方法の指導を行います。	工事用車両の運行に係る動物への影響を低減するために、動物のロードキル防止に留意し、運行方法の指導（運行ルート、走行速度規制等【写真】）を行っています。
11	工事用車両の、適切な運行管理を行い、触れ合い活動の場へのアクセス性を保全します。	工事用車両の適切な運行管理を行い、触れ合い活動の場へのアクセス性を保全しています。

三遠南信自動車道 青崩峠道路（長野県飯田市南信濃）に係る環境の保全のための措置の状況

工事施工状況等報告：平成 31 年 4 月-令和元年 6 月の状況

- ▶ これまで、必要な保全対策に取り組んでおり、今後も事業進捗に応じて必要な保全対策を実施する予定です。
- ▶ 本報告（令和元年度第 1 四半期：H31.4 月-R1.6 月）の期間中、新たな保全対策は実施していません。

環境影響評価書（長野県飯田市南信濃）の一般的な環境保全対策		環境保全対策の実施状況
② 当該事業における一般的な環境保全の方針		H31. 4 月-R1.6 月まで
12	施工管理の一環として、工事による河川水質への影響の有無を確認するため、小嵐川及び工事排水が想定される地点等適切な調査地点を設定し、着工前から環境基準に準拠した項目・手法による水質調査を行い、必要に応じて保全対策を検討し適切に実施します。	施工管理の一環として、工事による河川水質への影響の有無を確認するため、小嵐川及び工事排水が想定される地点(トンネル坑口付近)等適切な調査地点を設定し、着工前から環境基準に準拠した項目・手法による水質調査を実施しています。トンネル工事の着手に伴い、工事排水が想定される濁水処理施設直下に地点を設定し、調査を実施しています。
13	施工管理の一環として、工事による河川水質、地下水質、地下水位等の変化を確認するために水質汚濁防止法に準拠した項目・手法による排水の水質監視、ボーリング調査等による工事前及び工事中の詳細な地下水監視調査を実施します。	施工管理の一環として、工事による河川水質、地下水質、地下水位等の変化を確認するために水質汚濁防止法に準拠した項目・手法による排水の水質監視、道路予定地付近でのボーリング調査等による工事中の詳細な地下水監視調査を実施しています。 工事排水は排水基準を超過していませんが、地下水質は工事前から環境基準を超過するフッ素、ホウ素等が検出されています。トンネル掘削に伴う湧水を注視していきます。 また、トンネル直上に設置した観測井の地下水位は平成 27 年 10 月以降低下していますが、周辺の河川や沢の流量に減少傾向はみられていません。 河川水質は大腸菌群数を除き、環境基準を超過していません。大腸菌群数は、夏期に比べて冬期の分析結果の方が水質は改善される傾向にありますので、土壌中の微生物の影響と考えられ、工事の実施による影響ではないと考えられます。
14	トンネル掘削時の出水対策については、先進ボーリングによる前方被圧水の調査等、地盤の状況を把握し、濁水処理施設の規模を検討し適切に実施します。	平成 24 年度に、濁水処理施設の規模を検討しました。 検討結果に基づき、着工後は先進ボーリングによる前方被圧水の調査を行いながら、濁水処理施設の規模を検討し、設置しました。 設置した濁水処理施設の規模を超過する出水は発生していません。
15	トンネル掘削等における、地質由来の有害金属による河川、地下水への影響については、事前に先進ボーリング等により採取した試料の溶出量試験等を行うとともに、工事排水の水質監視を行い、必要に応じて保全対策を検討し適切に実施します。	調査坑トンネルの掘削を平成 26 年 12 月から平成 30 年 6 月に実施し、先進ボーリングにより地質由来の有害金属の有無を確認しながら施工した結果、溶出量基準を超過する有害金属（砒素）及び酸性土が検出されました。 そのため、有害金属等に対するモニタリング調査として、河川、地下水の水質監視を、平成 27 年 1 月から実施しています。 なお、本坑トンネルの掘削を令和元年 5 月から開始していますが、有害金属等に対するモニタリング調査として、河川、地下水の水質監視を引き続き実施しています。
16	建設発生土の利用にあたっては、事前に有害金属等の含有量試験等を行い、有害性が確認された場合は、保全対策を検討し適切に実施します。	先進ボーリングにより採取した試料の含有量試験を実施しましたが、含有量基準を超過する有害金属は検出されませんでした。 含有量基準を超過する有害金属は検出されませんでした。有害金属（砒素）の溶出及び酸性土が検出されたため、有害金属等を含む建設発生土を盛土材として利用する際の発生土処理対策を計画し、盛土を行っています。

三遠南信自動車道 青崩峠道路（長野県飯田市南信濃）に係る環境の保全のための措置の状況

工事施工状況等報告：平成 31 年 4 月-令和元年 6 月の状況

- ▶ これまで、必要な保全対策に取り組んでおり、今後も事業進捗に応じて必要な保全対策を実施する予定です。
- ▶ 本報告（令和元年度第 1 四半期：H31.4 月-R1.6 月）の期間中、新たな保全対策は実施していません。

環境影響評価書（長野県飯田市南信濃）の一般的な環境保全対策		環境保全対策の実施状況
② 当該事業における一般的な環境保全の方針		H31. 4 月-R1.6 月まで
17	杭打ちや沢等の工事を行う場合には、締め切り工法の採用を検討し、締め切り工区内にてコンクリートを十分養生し、締め切りを開放する際には河川下流側の pH に異常が生じていないことを確認する等、水質、植物、動物、生態系への影響の低減に努めます。	杭打ちや沢等の工事を行う場合には、締め切り工法の採用を検討し、締め切り工区内にてコンクリートを十分養生し、締め切りを開放する際には河川下流側の pH に異常が生じていないことを確認する等、水質、植物、動物、生態系への影響の低減に努めます。
18	夜間照明は、ナトリウム灯の採用、指向性照明の採用等を検討し、動物、生態系への影響の低減に努めます。	夜間照明は、ナトリウム灯の採用、指向性照明の採用等を検討し、動物、生態系への影響の低減に努めます。
19	小動物の生息環境を保護する観点から、設計段階において、小動物の移動経路の確保等について検討を行い、必要に応じて保全対策を適切に実施します。	平成 24 年度に、小動物の本線への立ち入りを防止し、橋梁下に誘導する対策を検討しました。 今後、適切に施工を実施します。
20	工事施工ヤード及びのり面等は、郷土種（コナラ、イロハモミジ等）による緑化を行い、要注意外来生物を使用しません。 注）「郷土種」は、「在来種」のうち伊那地域に生育するものとします。	工事施工ヤード復旧時及びのり面等は、郷土種（コナラ、イロハモミジ等）による緑化を行い、生態系被害防止外来種*を使用しません。 注）「郷土種」は、「在来種」のうち伊那地域に生育するものとします。
21	長野県が指定する指定希少野生動植物が改変区域内で新たに確認された場合には、専門家等の指導・助言を受け、移植検討を行い適切に保全します。	着工前に、調査を行った結果、長野県が指定する指定希少野生動植物は改変区域内で新たにカヤランが確認され、専門家等の指導・助言を受けて、平成 25 年 7 月にカヤランが自生する場所のスキの枝に移植しました。また、平成 28 年 11 月～12 月に一部の個体を対象に再移植を行い、平成 29 年 10 月に残りの個体の再移植を行いました。
22	構造物については自然環境と調和したデザインを行います。	平成 22 年度に、構造物について自然環境と調和したデザインとして、排水管等の添架物を隠す等の設計検討を行いました。 今後、適切に施工を実施します。
23	温室効果ガス対策として、詳細な施工計画の立案にあたり、環境負荷の少ない建設機械の使用と運転管理、環境負荷の少ない資材の使用、工事用車両の運行管理、建設副産物の移動距離の短縮等を検討し、適切に実施します。	温室効果ガス対策として、詳細な施工計画の立案にあたり、環境負荷の少ない建設機械の使用と運転管理、環境負荷の少ない資材の使用、工事用車両の運行管理、建設副産物の移動距離の短縮等を検討し、適切に実施しています。

※ 「生態系被害防止外来種リスト」が公表され、「要注意外来生物リスト」は発展的に解消されているため、「要注意外来生物」から「生態系被害防止外来種」に変更しました。

三遠南信自動車道 青崩峠道路（長野県飯田市南信濃）に係る環境の保全のための措置の状況

工事施工状況等報告：平成 31 年 4 月-令和元年 6 月の状況

- これまで、必要な保全対策に取り組んでおり、今後も事業進捗に応じて必要な保全対策を実施する予定です。
- 本報告（令和元年度第 1 四半期：H31.4 月-R1.6 月）の期間中、新たな保全対策は実施していません。

環境影響評価書（長野県飯田市南信濃）の個別要素の環境保全対策				環境保全対策の実施状況	
対象	実施時期	保全対策の項目	保全対策の内容	H31.4 月-R1.6 月まで	
植物	イワオモダカ	工事中～ 供用後	・移植	工事及び道路の存在・供用に伴う水分条件等の変化によって間接的に影響を受けると予測された個体に対して、工事中から供用後にかけて生育状況の監視を行い、影響の程度を把握し、必要に応じて移植します。調査結果を踏まえ、専門家等の指導・助言を受け必要に応じて移植を行います。	生育地周辺のトンネル本坑の工事は未実施ですが、工事及び道路の存在・供用に伴う水分条件等の変化によって間接的に影響を受けると予測された個体に対して、工事中から供用後にかけて生育状況の監視を行い、調査結果を踏まえ、影響の程度を把握し、専門家等の指導・助言を受け、必要に応じて移植を行います。
	ハルトラノオ	工事实施前	・工事施工ヤードの設置位置の検討、回避し難い場合は移植	工事によって消失する個体に対して、直接改変による影響を避けるため、工事施工ヤードの位置をハルトラノオの生育地を改変しない場所に変更することで、環境影響を回避します。工事施工ヤードの設置位置の検討にあたっては、副次的な環境影響が発生しないように専門家等の指導・助言を受けて検討します。ただし、改変を回避しがたい場合には、直接改変による影響を避けるため、直接改変を受けない確認箇所周辺への移植を行います。移植手法や時期等の選定にあたっては、専門家等の指導・助言を受け、現地調査により選定します。	工事によって消失する個体に対して、直接改変による影響を避けるため、工事施工ヤードの位置をハルトラノオの生育地を改変しない場所に変更することで、環境影響を回避しました。工事施工ヤードの設置位置の検討にあたっては、副次的な環境影響が発生しないように専門家等の指導・助言を受けて検討しました。
	ヒメニラ ・ヤマユリ	工事实施前 ～供用後	・移植	工事によって消失する個体に対して直接改変による影響を避けるため、直接改変を受けない確認箇所周辺への移植を行います。工事及び道路の存在・供用に伴う日照等の変化によって間接的に影響を受けると予測された個体に対して、工事中から供用後にかけて生育状況の監視を行い、影響の程度を把握し、必要に応じて移植します。移植適地や手法、時期等の選定にあたっては、専門家等の指導・助言を受け、現地調査により選定します。	ヒメニラは平成 24 年度に、工事によって消失する個体に対して直接改変による影響を避けるため、直接改変を受けない確認箇所周辺への移植を行いました。移植適地や手法、時期等の選定にあたっては、専門家等の指導・助言を受け、現地調査により選定しました。 ヤマユリは平成 24～28 年度に、改変区域及び間接的に影響を受けるおそれのある範囲として、実施区域の確認調査を行いました。現地では確認されませんでした。なお、今後改変の影響を受ける箇所では生育が確認された場合には、専門家の指導・助言を受け、移植を行います。

三遠南信自動車道 青崩峠道路（長野県飯田市南信濃）に係る環境の保全のための措置の状況

工事施工状況等報告：平成 31 年 4 月-令和元年 6 月の状況

- ▶ これまで、必要な保全対策に取り組んでおり、今後も事業進捗に応じて必要な保全対策を実施する予定です。
- ▶ 本報告（令和元年度第 1 四半期：H31.4 月-R1.6 月）の期間中、新たな保全対策は実施していません。

環境影響評価書（長野県飯田市南信濃）の個別要素の環境保全対策				環境保全対策の実施状況
対象	実施時期	保全対策の項目	保全対策の内容	H31. 4 月-R1.6 月まで
植物	ユウシュンラン	工事实施前	・ 工事施工ヤードの設置位置の検討	<p>工事の実施によって消失する個体に対して、直接改変による影響を避けるため、工事施工ヤードの位置をユウシュンランの生育地を改変しない場所に変更することで、環境影響を回避します。工事施工ヤードの設置位置の検討にあたっては、副次的な環境影響が発生しないように専門家等の指導・助言を受けて検討します。</p> <p>工事の実施によって消失する個体に対して、直接改変による影響を避けるため、工事施工ヤードの位置をユウシュンランの生育地を改変しない場所に変更することで、環境影響を回避しました。工事施工ヤードの設置位置の検討にあたっては、副次的な環境影響が発生しないように専門家等の指導・助言を受けて検討しました。</p>
動物	クマタカ	工事中	・ クマタカの馴化を考慮した資材や建設機械の搬入	<p>資材や建設機械は、繁殖期以前から少しずつ搬入し、クマタカが工事車両の運行、建設機械や資材の存在及び工事関係者の出入りに馴化できるように配慮し、必要に応じて、明かり部に目隠しの設置等を検討します。</p> <p>資材や建設機械は、繁殖期以前から少しずつ搬入し、クマタカが工事車両の運行、建設機械や資材の存在及び工事関係者の出入りに馴化できるように配慮しました。必要に応じて、明かり部に目隠しの設置等を検討します。</p> <p>なお、平成 31 年 4 月～令和元年 6 月に生息状況の調査を行いました。</p>
	ヒダサンショウウオ*	工事中及び供用後	・ 産卵場所の代償（河川流量が減少する場合）	<p>工事中及び供用後の繁殖期に河川流量が減少して繁殖への影響が懸念される場合、石組み等で繁殖環境を復元することにより、繁殖状況を保全します。</p>
			・ 繁殖期の移動（河川流量が減少する場合）	<p>工事中及び供用後の繁殖期に河川流量が減少して繁殖への影響が懸念される場合、産卵に来た成体やふ化した幼生を捕獲して適切な場所へ移動させることで、個体群の存続を保全します。</p>
アカイサンショウウオ	工事中及び供用後	・ 移動	<p>工事中及び供用後の影響の程度が著しいものとなるおそれがある場合、影響を可能な限り低減するため、適切な場所へ移動させることで、個体群の存続を保全します。</p>	<p>工事中及び供用後の影響の程度が著しいものとなるおそれがあり、影響を可能な限り低減するため、トンネル工事施工ヤードの施工に先立ち、平成 25 年 6,7,11 月に改変予定箇所での生息調査を行いました。平成 25 年に、改変予定箇所で捕獲した個体を、遺伝子解析結果に基づき遺伝子攪乱の問題のない改変範囲外の河川へ移動させました。</p>

※環境影響評価時には「ヒダサンショウウオ」としていましたが、平成 30 年に「ヒガシヒダサンショウウオ」として新種記載されました。

三遠南信自動車道 青崩峠道路（長野県飯田市南信濃）に係る環境の保全のための措置の状況

工事施工状況等報告：平成 31 年 4 月-令和元年 6 月の状況

- ▶ これまで、必要な保全対策に取り組んでおり、今後も事業進捗に応じて必要な保全対策を実施する予定です。
- ▶ 本報告（令和元年度第 1 四半期：H31.4 月-R1.6 月）の期間中、新たな保全対策は実施していません。

環境影響評価書（長野県飯田市南信濃）の個別要素の環境保全対策				環境保全対策の実施状況	
対象	実施時期	保全対策の項目	保全対策の内容	H31. 4 月-R1.6 月まで	
動物	工事実施前	・工事施工ヤードの設置位置の検討	ベニモンカラスシジミの食餌植物であるコバノクロウメドキの直接的改変を回避するために、工事施工ヤードの設置位置を検討します。工事施工ヤードの設置位置の検討にあたっては、副次的な環境影響が発生しないように専門家等の指導・助言を受けて検討します。	平成 24 年度に、ベニモンカラスシジミの食餌植物であるコバノクロウメドキの直接的改変を回避するために、工事施工ヤードの設置位置を検討しました。工事施工ヤードの設置位置の検討にあたっては、副次的な環境影響が発生しないように専門家等の指導・助言を受けて検討しました。	
		・食餌植物の改変範囲の最小化	工事施工ヤードの設置位置を変更したい場合等には、改変範囲を最小化して、影響の最小化を図ります。	平成 24 年度に、工事施工ヤードの設置位置を変更したい箇所について、改変範囲を最小化して、影響の最小化を図りました。	
	工事中及び供用後	・隣接する沢への食餌植物の移植	改変区域内にあるベニモンカラスシジミの食餌植物であるコバノクロウメドキについては、移植を実施します。	平成 20 年度から平成 28 年度まで、改変区域内にあるベニモンカラスシジミの食餌植物であるコバノクロウメドキの移植及び植栽を実施しました。	
生態系	工事中及び供用後	・産卵場所の代償（河川流量が減少する場合）	工事中及び供用後の繁殖期に河川流量が減少して繁殖への影響が懸念される場合、石組み等で繁殖環境を復元することにより、繁殖状況を保全します。	工事中及び供用後の繁殖期に河川流量が減少して繁殖への影響が懸念される場合、石組み等で繁殖環境を復元することにより、繁殖状況を保全します。	
		・繁殖期の移動（河川流量が減少する場合）	工事中及び供用後の繁殖期に河川流量が減少して繁殖への影響が懸念される場合、産卵に来た成体やふ化した幼生を捕獲して適切な場所へ移動させることで、個体群の存続を保全します。	工事中及び供用後の繁殖期に河川流量が減少して繁殖への影響が懸念される場合、産卵に来た成体やふ化した幼生を捕獲して適切な場所へ移動させることで、個体群の存続を保全します。	
	動物相・植物相	工事実施前～供用後	・沢等の動物相、植物相の確認	表流水が減少する可能性があるとして想定される箇所について、工事前から指標種以外の種も対象として、生息種・生育種の記録のためのコドラート調査を行います。	表流水が減少する可能性があるとして想定される箇所について、工事前の平成 24 年度、工事中の平成 28～29 年度に、指標種以外の種も対象として、生息種・生育種の記録のためのコドラート調査を行いました。

※環境影響評価時には「タゴガエル」としていましたが、平成 26 年に「ネバタゴガエル」として新種記載されました。

三遠南信自動車道 青崩峠道路（長野県飯田市南信濃）に係る環境の保全のための措置の状況

工事施工状況等報告：平成 31 年 4 月-令和元年 6 月の状況

- これまで、必要な保全対策に取り組んでおり、今後も事業進捗に応じて必要な保全対策を実施する予定です。
- 本報告（令和元年度第 1 四半期：H31.4 月-R1.6 月）の期間中、新たな保全対策は実施していません。

環境影響評価書（長野県飯田市南信濃）の個別要素の環境保全対策				環境保全対策の実施状況
対象	実施時期	保全対策の項目	保全対策の内容	H31.4 月-R1.6 月まで
景観	島畑からの八重河内西山の眺望	・視点の代償	島畑周辺の八重河内西山の眺望を遮らない箇所に新たに視点場を設けます。	長野県飯田建設事務所と飯田市との協議において、島畑からの八重河内西山の眺望、塩の道（秋葉街道）、島畑、木地師墓石「庚申」については、環境保全対策として「記録保存」を行うこととなり、平成 24 年度に記録保存が飯田市により実施されました。
人触れ	塩の道（秋葉街道）、島畑、木地師墓石「庚申」	・塩の道（秋葉街道）等の保全措置の検討（関係者協議）	対象道路明かり部の変更区域について、関係者協議のもと、塩の道（秋葉街道）、島畑、石碑及び周辺の樹林の復元等を検討し、必要な保全対策を実施します。	
		・必要に応じて塩の道（秋葉街道）、島畑、木地師墓石「庚申」の復元	関係者と協議のもと、塩の道（秋葉街道）、島畑、石碑及び周辺の樹林の復元等を検討し、必要な保全対策を実施します。	
廃棄物等	廃棄物等	・再利用の推進（工事間利用の徹底）（50km 以内での再利用、自然に配慮した仮置き場の選定）	「公共工事における再生資源活用の当面の運用について」（平成 14 年 5 月 30 日付 国官技第 42 号、国官総第 126 号、国営計第 27 号、国総事第 22 号大臣官房技術調査課長等発）に基づき、建設発生土は 50km 以内の他の建設工事（民間も含む）へ搬出し、再利用を図るよう調整します。なお、建設発生土を仮置する場合には、自然環境の保全に配慮して仮置場所の選定を行います。	「公共工事における再生資源活用の当面の運用について」（平成 14 年 5 月 30 日付 国官技第 42 号、国官総第 126 号、国営計第 27 号、国総事第 22 号大臣官房技術調査課長等発）に基づき、建設発生土は 50km 以内の他の建設工事（民間も含む）へ搬出し、再利用を図るよう調整します。なお、建設発生土を仮置する場合には、自然環境の保全に配慮して仮置場所の選定を行っています。

三遠南信自動車道 青崩峠道路（長野県飯田市南信濃）に係る環境の保全のための措置の状況

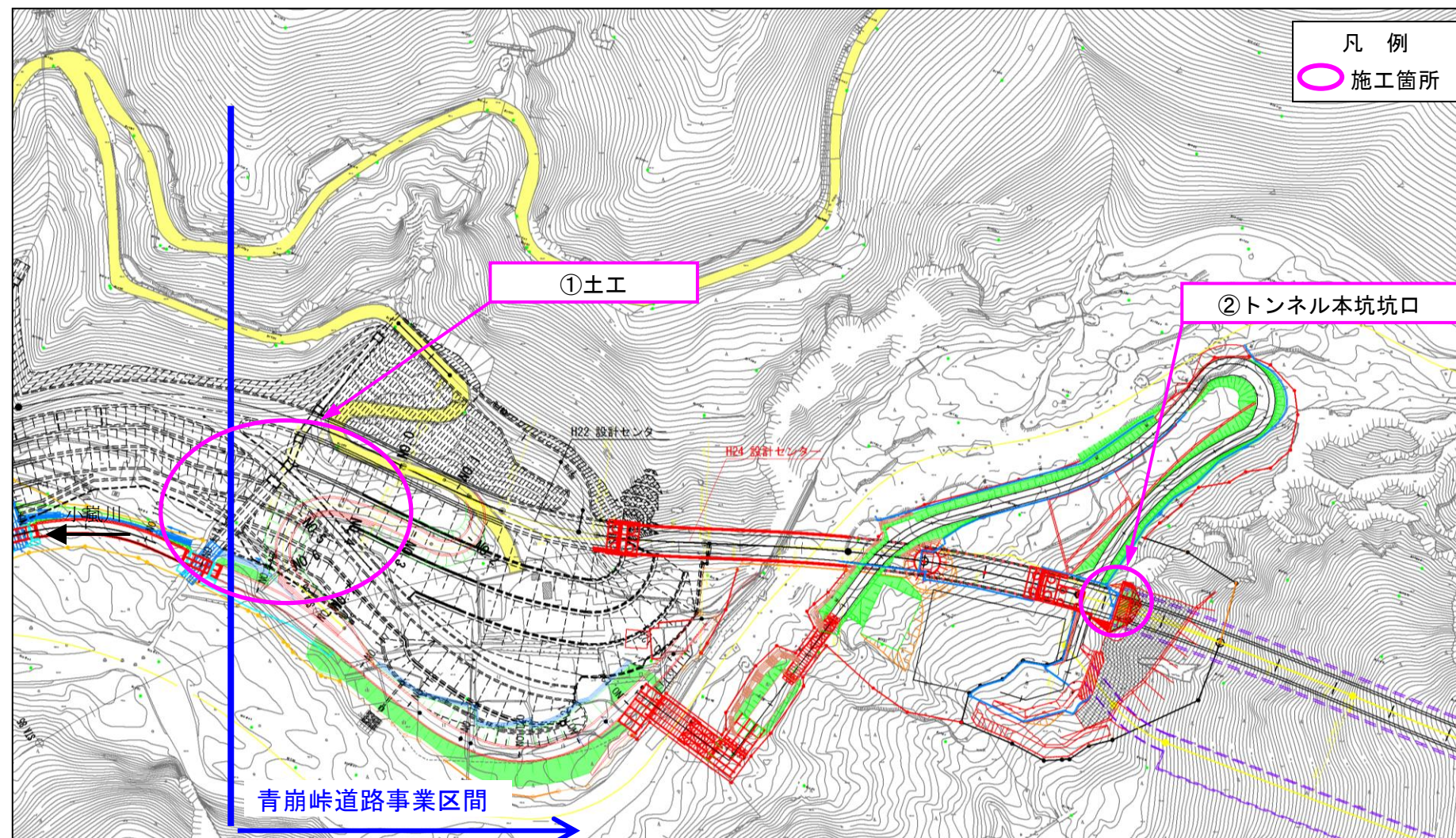
新たに講ずることとした環境の保全のための措置：平成 31 年 4 月・令和元年 6 月の状況

- ▶ これまで、必要な保全対策に取り組んでおり、今後も事業進捗に応じて必要な保全対策を実施する予定です。
- ▶ 本報告（令和元年度第 1 四半期：H31.4 月・R1.6 月）の期間中、新たな保全対策は実施していません。

新たに講ずることとした環境の保全のための措置				環境保全対策の実施状況
対象	実施時期	保全対策の項目	保全対策の内容	H31. 4 月・R1.6 月まで
植物	タチキランソウ ・カヤラン	工事実施前	・移植 工事の施工前に、工事施工箇所の踏査を行い、貴重な植物種の有無について確認し、生育が確認された場合には、移植対策により、貴重植物の保全を行います。	工事の施工前の平成 25 年度に、工事施工箇所の踏査を行った結果、貴重植物であるタチキランソウの生育が確認されたため、平成 25 年 8 月に生育環境が類似した場所に移植しました。 また、同様にカヤランの生育が確認されたため、平成 25 年 7 月にカヤランが自生している箇所付近に移植しました。また、平成 28 年 11 月～12 月に一部の個体を対象に再移植を行い、平成 29 年 10 月に残りの個体の再移植を行いました。
動物	イモリ・モリアオガエル	工事実施前	・移動 工事の施工前に、工事施工箇所の踏査を行い、貴重な動物種の有無について確認し、生息が確認された場合には、移動対策により、貴重動物の保全を行います。	工事の施工前の平成 25 年度に、工事施工箇所の踏査を行った結果、貴重動物であるイモリ・モリアオガエルが確認されたため、平成 25 年 8 月に確認箇所から近い改変区域外に池を造成して移動させました。また、平成 28 年 5 月に小嵐川右岸の河畔林に新たな代替池を造成しました。
生態系	タゴガエル※	工事実施前	・移動 工事の施工前に、工事施工箇所の踏査を行い、生態系の注目種の有無について確認し、生息が確認された場合には、移動対策により、生態系の注目種の保全を行います。	工事の施工前の平成 25 年度に、工事施工箇所の踏査を行った結果、生態系の注目種であるタゴガエル※が確認されたため、捕獲した個体を、平成 25 年 6 月、7 月、11 月に遺伝子上の問題のない改変範囲外の河川対岸へ移動させました。

※環境影響評価時には「タゴガエル」としていましたが、平成 26 年に「ネバタゴガエル」として新種記載されました。

※タチキランソウ、カヤラン、イモリ、モリアオガエルは、環境影響評価書において事後調査として設定されていませんが、新たに実施した事後調査を示します。



①土工



②トンネル本坑坑口

図 対象事業の実施状況

【使用している建設機械及び工事現場における配慮】



工事用道路の仮舗装



工事現場への立ち入り禁止柵



散水



規制速度・走行速度の明示



排ガス対策型・低騒音型建設機械



トンネル坑口 防音扉の設置

写真 保全対策実施状況